

柑橘の花芽分化に関する調査

Ⅱ．腋花芽の分化とその発達について

長田 一美
(福岡県農業改良課)

OSADA, K.

Investigation of the Flower-bud Differentiation in Citrus Trees
(Ⅱ) On the formation of lateral flower buds

柑橘の花芽分化に関する既往の研究は、いずれも頂花芽を対象としたものであり、腋花芽について実施されたものは少ない。筆者はさきに温州みかん他の頂花芽の分化について報告したが、その際八朔の腋花芽の小突起形成期について述べた。そこで腋花芽の分化とその発達について1962, 63年に調査を行ったので、その結果を報告する。

なお本調査は熊本県果樹試験場菊池分場在職中に行つたものである。

調査材料及び方法

9～10年生のワシントン・ネーブル及び八朔を用い、3月上旬より4月下旬にわたつて、1年生春枝の先端芽を1回当たり5～10芽あて採つた。調査方法は鱗

片剥皮法により、頂芽と腋芽の全部について倍率60倍で観察した。開花期などの調査には、前2種のほか小林みかんも供試した。

調査結果及び考察

1. 腋花芽の分化の象徴及びその発達の階程については、第1麦上欄のとおりにした。なお分化期については頂花芽の場合より象徴が明らかなので、萼片が2枚形成され、生長点が肥厚した時とした。

2. 腋花芽の分化とその発達：ワシントン・ネーブルの'63年の成績は第1麦のとおりである、3月中旬より腋花芽の原基である小突起が形成され、4月始めから中旬にかけて花芽分化している。この分化期には頂花芽は萼片期～雌蕊期に達している。その後腋花芽

第1表 幼結果枝上の位置による花芽の分化とその発達：ワシントン・ネーブル (1963)

採芽月日	調査芽数	芽の位置	小突起未形成	小突起形成期	分化初期	分化期	萼片期	花弁期	雄蕊期	雌蕊期	幼結果枝の長さ mm
3. 3	8	頂芽	8	8	3	5					0.39
	8										
3. 14	6	頂芽	6	6	2	4					1.0
	6										
	6										
4. 4	8	頂芽	1	4	1	3	6	2			2.2
	8										
	7										
	4										
	1										
4. 13	7	頂芽		2	1	3	1	1		5	9.5
	7										
	7										
	6										
	4										
4. 19	6	頂芽		2		3		1	2		12.1
	6										
	6										
	5										
4. 24	5	頂芽	(1)	(1)							25.2
	5										
	5										
	5										
	2										

注：() 内は葉芽の数

は開花直前までに急速に発達するが、頂花芽よりはかなり遅れている。開花期は5月11～24日であつたが腋花芽は数日遅れていた。八朔もほとんど同様な結果であつた。

2カ年の調査から両種とも頂花芽が盛んに分化発達する3月中旬より腋花芽の原基が形成され始め、ワシントン・ネーブルで3月下旬～4月中旬、八朔で4月上～中旬に形態的分化を行う。

3. 幼結果枝上の腋芽の位置による花芽の分化期とその発達の相違：ワシントン・ネーブル、八朔ともに下方のものが頂花芽に近いものより早く、開花期に達

するものも数日早い。しかし最下部の花芽はやや遅れるものもある。小林みかんにおいても同様な結果が腋花芽の花蕾の大きさ、開花期においてみられた。

4. 腋花芽は頂花芽よりも分化期やその発達ともに遅れ、開花期もかなり遅れる。ワシントン・ネーブルの腋花芽は開花前に落蕾するものが多く、八朔、小林みかんにおいてもその傾向にあるが、特に異常花の多いのを認めた。

5. 1963年は'62年に比し分化期に達するのが幾分遅く、その発達や開花期もかなり遅れたが、これは冬季の大寒波襲来に由来するものと思われる。